

8月11日(火)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

今年はオンラインで
元気に発行中!

ほぼ

日刊サマーミュージア ONLINE

Hobo Nikkan Summer Muza

東京交響楽団と 原田慶太楼、 「音楽のまち・かわさき」の 明るい未来を確信



【8/10 東京交響楽団フィナーレコンサート】

©青柳聡

8月10日の「フェスタサマーミュージアKAWASAKI2020」は、東京交響楽団によるフィナーレコンサート。2021年4月の同響正指揮者就任が内定した原田慶太楼の「アラビアンナイト(千夜一夜物語)」と銘打たれたが、実際にはロシア～旧ソ連の作曲家の特集だ。「首席奏者をソリストに」との希望に沿ってグリエールの「ハープ協奏曲」



(1938)では景山梨乃、リムスキー=コルサコフの「交響組曲《シェラザード》」(1888)では景山とコンサートマスターの水谷晃、さらにチェロの伊藤文嗣らが素晴らしいソロの腕前を披露した。

開幕はショスタコーヴィチの《祝典序曲》(1954)。原田は感染症対策をとりながら第1ヴァイオリンを14(人)型(対向配置)まで戻したサイズの東響をフルに鳴らし、コーダ(終結部)手前ではパイプオルガンの側に10人の金管楽器奏者も招き入れて豪快に盛り上げ、猛暑の睡魔を吹き飛ばした。

景山のアンコール、ルニエ(フランスの女性作曲家)の「い

たずら小鬼の踊り」で明確に示された通りミュージアの音響特性とハープの相性は抜群。繊細で華やか、たつぷり情緒をたたえた演奏だ。原田は体のバネを生かした柔軟な棒さばきでソロにびたりと付ける巧みさを発揮した。

「シェラザード」では指揮棒を持たず、全身を駆使したボディランゲージで東響をさらなる頂点へと駆り立てた。ゆっくり目のテンポで強弱、緩急の振幅を大きくとり、作為的なドラマトルギー(作劇術)よりもシークエンスごとの物語の「像」をくつきりと活写、見事な千夜一夜物語に仕上げた。(池田卓夫/音楽ジャーナリスト @いけたく本舗@)



指揮：原田慶太楼(左)、ハープ：景山梨乃(中央)、コンサートマスター：水谷晃(右)

来場者の声

フィナーレ公演にふさわしいプログラムでした!ハープのソリストの演奏は初めてでしたが美しい音色に満たされて幸せな気分になりました。原田マエストロと東響の、音を奏でる喜びにあふれた演奏が印象的でした。正指揮者就任の来季がますます楽しみです。(40代・会社員・NLC) / 指揮者の原田さんが、祝典序曲から全力投球でシェラザードが終わったあとは、やり切った感にあふれていました。来年も聴きに行きたいと思いました。(40代・会社員・ちくわぶ) / オケの魂が一丸となって高みに昇った特別な演奏会だった。原田さんの熱血陽気なマインドが、水谷さんをはじめとする楽団員とマッチしていて、来春の正指揮者就任で、東京交響楽団は飛躍的に成長するのではないかと非常に注目され、後援会に入ろうかと思ったほど。楽団員をソリストに抜擢する原田さんの考え方も素晴らしい。(50代・会社員・ミュージアファン) / シェラザードの最後の余韻とともに、まるで夢のような今年のサマーフェスタが終わってしまったんだとちょっとしみりしてしまいました。夢になりそうだった今年のフェスタを現実にしていただいたスタッフ・オーケストラの皆様にお礼を申し上げます。来年もまたどのようなカタチであれホールで皆様と再会できますように。あ、今年のフェスタは月末までアーカイブ配信があるんです。まだまだ楽しめます!(会社員・ぜぶら)

エンジョイ! 川崎!!

Enjoy Kawasaki パートナーショップのご紹介

プリプリの雲呑に から・うまな麺!

暑い辛い麺が食べたくなるこの季節。本日も紹介するお店は雲呑房(わんたんぼう)さん。今回は、坦々雲呑麺チョイス。タンタンワンタンメン。たんたんわんた

んめん。連呼したくなります。坦々雲呑麺にミニ鶏飯をセットで(1,040円税別)。ワンタンはエビ、牛肉、豚肉から選べます。私はエビで。プリプリ。鶏飯用のソースは甘い系としょっぱい系の2種類。最終的には両方か

～本日も紹介したお店～

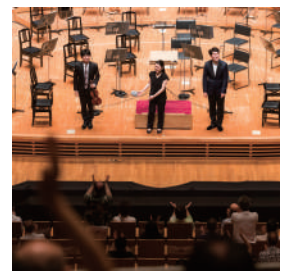
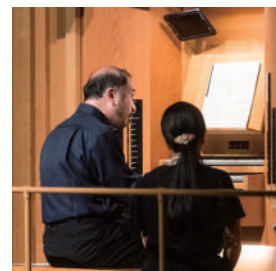
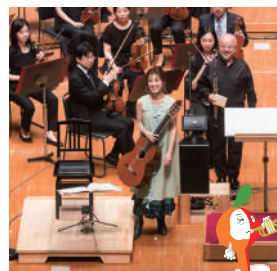
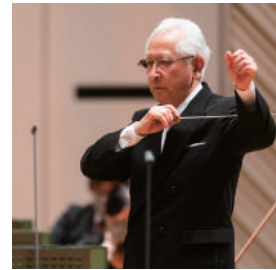
雲呑房

アゼリア地下



19日間・全17公演を無事完奏!!

5つの公演が完売! 19日間の出演者はのべ800人、約7,800人のお客様にホールでご鑑賞いただきました。オンライン鑑賞券は1万枚以上販売、総再生回数は2万3千回以上! (8/10現在)



(左上から) 7/23 東京交響楽団オープニング | 7/24 イッツ・ア・ピ
アワールド・小川典子 | 7/25 NHK 交響楽団・プレ室内楽コンサート
| 7/26 サマーナイト・ジャズ・阿川泰子が観客を魅了 |
7/25NHK 交響楽団・広上淳一 | 7/28 神奈川フィルハーモニー管弦
楽団・公演前インタビュー (石田泰尚・崎谷直人、バックステージ
ナビゲーターの竹平晃子) | 7/29 読売日本交響楽団・サン＝サー
ンス (動物の謝肉祭) | 7/30 東京交響楽団・秋山和慶 | 8/1 群馬交響
楽団・プレトークで楽譜研究の成果を語る高関健 | 8/2 東京フィル
ハーモニー交響楽団・三重協奏曲で快演を聞かせた若きソリストた
ち | 同日・笑みを浮かべる尾高忠明 | 8/4 新日本フィルハーモニー
交響楽団・着替え後にカーテンコールで呼び戻される久石譲ら |
8/5 驚くべき爽快な〈ジュビター〉を聴かせた田中祐子&昭和音楽
大学 | 8/6 神奈川フィルハーモニー管弦楽団・ソリスト3名と指揮
の渡邊一正 | 8/7 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団・観客
の拍手にこたえる飯森泰次郎とオーケストラ | 8/8 日本フィルハー
モニー交響楽団・武満徹の演奏を終えたギター:村治佳織&オーボエ
・タモレ松岡裕雅 | 8/9 真夏のパッパ・V・プレトークでオルガンの
内部構造を解説するホールオルガニストの太木麻理とオルガン製
作者の横田宗隆 | 同日・オルガンと向き合う椎名雄一郎 | 8/10 東京交
響楽団フィナーレ・惜しみない拍手で称えられる指揮:原田慶太郎
・ソリストを務めたハーブ:景山梨乃、コンサートマスター:水谷晃

編集後記
この「ほぼ日刊サマーミュージア」もなんと6年目。今年は基本オンラインでの発行ということになりましたが、お楽しみいただけましたでしょうか。
いつもなら刷り上がった新聞を手に取ってくださるお客様の反応を楽しみに頑張っているのですが、今年はそうもいかず。でも最終後、ウェブで寄せいただいたアンケートを集計していただいたら、ようやく完奏したんだという実感が湧いてきて、つい涙が...
こんな時期の開催ですから、ミュージアのスタッフも、ご出演くださった音楽家の皆様も、それぞれの持ち場で自分たちでできる最大限の対策を無我夢中でやりました。そしてご来場の皆様も、手指消毒やチケットもぎりにはまる数々の対策にご協力くださいました。本当にありがとうございます。こうして、無事の閉幕にこぎつけられたのは、ご出演の皆様にもちろん、ひとえにお客様ひとりひとりのおかげと感謝申し上げます。
8月いっぱいはいアカイブ配信も「おかわりサマーミュージア」しても大丈夫です。皆さまぜひとも「おかわりサマーミュージア」してくださいね。ではまた、来年の夏にお会いしましょう!
(3代目編集長・新米ママム)